

＜農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例＞

○集落営農法人を中核に環境保全に取り組む生涯現役農業

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	大分県杵築市大田大字俣水 南 俣 水			
協 定 面 積	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
24.5 ha	水稻・麦			
交 付 金 額	個人配分			33 %
209 万円	共同取組活動 (67%)	役員報酬		7 %
		共同利用施設管理費		24 %
		水路・道路管理費、電柵費		17 %
		共同利用機械購入積立		16 %
		事務費等		3 %
協 定 参 加 者	農業者 37人、農事組合法人（構成員28人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

南俣水集落では、近年、農業人口のうち65歳以上の高齢者が7割を超える高齢化から、耕作放棄による農地の荒廃が懸念されていた。

そこで、平成9年に南俣水営農集団を設立し、転作作物の作業受委託とともに、個人が管理できなくなった農地の集積を進めてゆく中で、平成12年から始まった本事業に取り組むこととなった。本事業を活用し共同機械導入を進め、平成18年には「農事組合法人 南俣水里の農場」を設立した。引き続き同法人が中心となって本事業に取り組み、生涯現役で持続可能な農業体制の構築に努めているところである。

3. 取組の内容

高齢化が進む中山間地域で全戸参加型の法人を設立し、耕作できなくなった農地の集積を進めている。現在17.18haまで集積が進んでおり、平成26年度までにさらなる増加を目指している。

また、都市住民や近隣小学校による稲作体験を行っているほか、近年では減農薬で稲作に取り組んだところカブトエビが生息し始めたため、近隣小学校と連携して自然環境観察会を開催するなど、中山間地域の持つ多面的機能の発揮にも努めている。



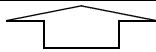
【南俣水集落全景】



【カブトエビの自然環境観察会】

【集落の将来像】

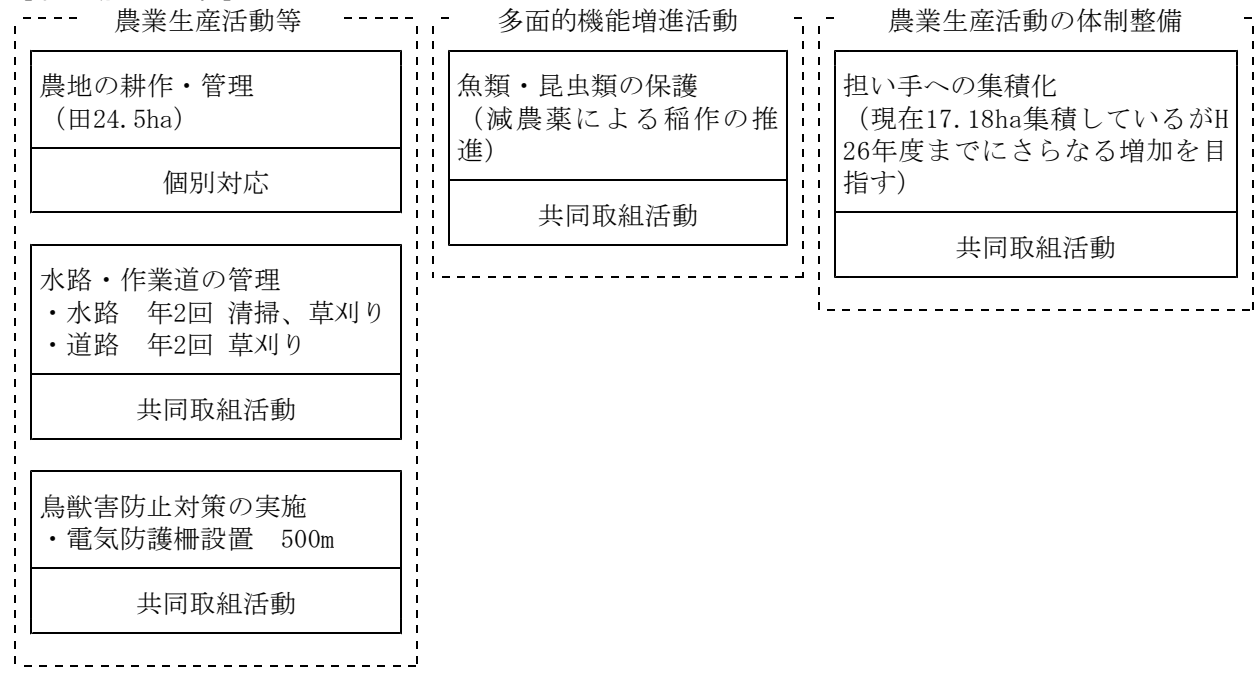
- 「農事組合法人 南俣水里の農場」を核とした農業生産活動等の体制整備



【将来像を実現するための活動目標】

- 農事組合法人南俣水里の農場への農地集積18ha以上を目標とする。
- 農事組合法人南俣水里の農場への農作業委託10ha以上を目標とする。

【活 動 内 容】



集落外との連携

- 近隣の小学校と連携してカブトエビの自然環境観察会を開催。
- 都市住民や近隣の小学校と稲作体験、農家体験を通じての消費者交流。

4. 今後の課題等

高齢化が進んでいる中、引き続き担い手の育成が大きな課題になっている。

「生涯現役で環境保全と交流に取り組む農業」をスローガンに集落営農組織が中心となって、生涯現役農業を基本に、これからも農地・農村環境を将来にわたり保全してゆくことを目指す。

【第2期対策の主な成果】

- ・ 農事組合法人南俣水里の農場を設立
- ・ 耕作放棄地の防止
- ・ 都市住民や近隣の小学校との交流による、地域の活性化